

平成20年2月県議会定例会

教育委員会委員長演述要旨

岩手県教育委員会

第5回県議会定例会が開催されるに当たりまして、平成20年度の教育行政推進の基本的な考え方と施策の大要について申し上げます。

はじめに

社会の諸情勢が大きく、複雑に変化している中で、県民一人ひとりが充実した心豊かな生活を送り、地域社会を支え発展させていくため、教育の役割はますます重要になってきておりますが、県民総参加の「教育立県」を基本理念として、自立する岩手を担う人材育成のために全力を尽くして参る所存であります。

学校教育の改革・充実

まず、次世代の岩手を担う子どもたちを育む最も重要な基盤である学校教育について申し上げます。

(学校教育を取り巻く社会の変化)

我が国におきましては、戦後の復興期・高度成長期を経て、今日、経済大国としての地位を固め、豊かな社会を実現して参りました。

しかしながら、一方では、国民の価値観の多様化が進む中で、家庭や地域の教育力の低下、社会の規範意識の希薄化などが指摘されるようになりました。

このような社会の大きな変化は、子どもたちに大きな影響を与えており、子どもたちの人間関係を取り結ぶ能力や忍耐力、継続力の低下、自己中心的な傾向といった心身の変容をもたらし、その結果として、いじめ、不登校などの学校不適応の増加をはじめ、学習意欲の低下や学力のばらつきの拡大な

どが顕在化してきております。

私は、このような社会の大きな変化の中での子どもたちの心身の変容が、今日の学校教育の困難さの根本的な原因であると認識しております。

(岩手の教育の目指す姿)

本県におきましても、同じような課題に直面しておりますが、私は、子どもたちの確かな成長を支え、より良い社会を形成し得る有為な人材、地域社会の活性化に寄与し得る人材として育てていくことこそが教育に課された使命であると考えております。

そのためには、社会の変化がどう進もうとも、子どもたち一人ひとりを社会を担っていくことができる人間として育てる、「人間形成」という教育目的の実現に全力を尽くさなければなりません。

このために、私は、次の4つの基本的な方針の下に、本県の学校教育を進めて参りたいと考えております。

第1に、岩手の教育の目的は、子どもたちの「知・徳・体」を総合的に育む「人間形成」そのものであるということを、教師をはじめ、全ての教育関係者が再確認することであります。

第2に、この「人間形成」という教育の大前提を踏まえた上での学力の向上であります。

「読み・書き・計算」といった基礎知識の徹底した習得から、知識を活用する力、思考能力やコミュニケーション能力など、社会で生きていくために求められる「基礎・基本」を、全ての子どもたち一人ひとりに確実に定着さ

せることであります。

第3に、子どもたちに社会の一員としての役割を果たしていくことの大切さや喜びなどを十分に伝え、社会人になるということの意義を教えることであります。

第4に、「人間形成」という教育目的の実現には、家庭や地域の教育力を再構築していくことが必要不可欠であり、そのためには、学校と家庭・地域との連携を強化していくことであります。

私は、今日の学校教育の困難な状況を克服していくためには、この4つの基本方針を全ての教育関係者と共有するとともに、学校や教師の自由度を高め、子どもたちを育む現場である学校の役割を強化し、教師の創意・工夫が最大限発揮される仕組みをつくることが何よりも大切であると考えております。

このような考え方の下に、次のとおり学校経営の改革、児童生徒の学力向上をはじめとした学校教育の充実のための諸施策の実現に取り組んで参ります。

(家庭・地域と協働する目的達成型の学校経営への改革)

まず、学校経営の改革についてであります。

「人間形成」という教育目的の実現のためには、各学校が、それぞれの現状や課題に応じた明確な達成目標を持ち、いわゆる「Plan・Do・See」という経営サイクルに基づく学校経営を行っていくことが重要であります。

また、このような経営サイクルの中に、家庭や地域との連携を位置づける

ことにより、家庭・地域の教育力も向上し、同時に、家庭・地域の力によって学校を支える仕組みが形づくられていくものと考えております。

私は、このような家庭・地域と連携した学校づくりを、岩手の義務教育の土台と位置づけ、「いわて型コミュニティ・スクール構想」として力強く推進して参ります。

(児童生徒の学力向上)

次に、児童生徒の学力の向上についてであります。

小・中学校においては、児童生徒一人ひとりの「基礎・基本」の定着に向け、学力の状況のきめ細かな分析や課題の把握を行うとともに、授業力の強化、少人数教育などによる理解や習熟に応じた指導、「まなびフェスト」による家庭との連携などを強化し、体系的に推進して参ります。

また、児童生徒が社会の一員となっていくという自覚を持ち、学びの意欲を確立できるよう、発達段階に応じたキャリア教育を、地域の産業界などとの連携の下に推進して参ります。

特に、教師の授業力については、各学校の校内授業研究の一層の充実などにより、高等学校も含めてその向上を図って参ります。

(豊かな心を育む教育の推進)

次に、豊かな心を育む教育の推進についてであります。

多様な個性を持つ児童生徒一人ひとりを受け入れ、それぞれの自己実現を支援していく学校づくりを進めるとともに、様々な体験活動や読書活動などにより、豊かな感性や情操を育む教育を推進して参ります。

また、いじめや不登校などの学校不適応対策については、生徒指導に関するノウハウの若手教師への伝授などによる教師の指導力の向上や、地域や関係機関と連携した取組を充実し、未然防止、早期発見・解消に取り組んで参ります。

(児童の体力向上)

次に、児童の体力向上についてであります。

子どもたちが運動の楽しさを知り、自ら進んで実践する意識を醸成していくため、小学校においては、「まなびフェスト」の取組などにより、運動する機会の拡大や習慣化を図るための「岩手っ子体力アップ運動」を推進するとともに、規則正しい生活習慣の確立や食育の推進など、学校と家庭が連携した取組を推進して参ります。

(特別支援教育の充実)

次に、特別支援教育の充実についてであります。

学校教育の段階から障害のある子どもと障害のない子どもが、地域の学校、学級で共に学び、育ち合うという「インクルーシブ教育」を推進していくため、特別支援学校の分教室の設置など、障害のある児童生徒を受け入れる教育の場の拡充を図るほか、支援員の充実や教師の研修など、教育ニーズに応じたきめ細かい特別支援教育体制の確立を図って参ります。

また、関係機関や企業と協力した就業支援や職場実習の受け入れ促進など、生徒の自立と社会参加の支援も充実して参ります。

スポーツの振興

次に、競技スポーツをはじめとしたスポーツの振興について申し上げます。

現在、私たちは、地域におけるスポーツ・レクリエーション活動へ参加をしたり、国内外で催されるスポーツイベントを観戦したりする機会の増加など、様々な形でスポーツに親しむ機会を得ることができるようになってきております。

しかしながら、一方では、精神的なストレスの増大や日常における身体を動かす機会の減少などにより心身両面での問題も指摘されております。

私は、地域社会の活力の維持・向上という観点からも、県民が心身ともに健全な生活を営むことは大切であり、年齢・性別を問わずスポーツに関心を持ち、親しむ環境づくりを、より一層進めていくことが重要であると考えております。

(競技スポーツの強化)

特に、国際大会や全国レベルの大会での本県出身選手や本県チームの活躍は、県民に夢と感動を与えると同時に、スポーツに対する関心を広く喚起するものであることから、関係団体などと連携しながら、積極的に競技スポーツの強化を図って参りたいと考えております。

平成28年には、第71回国民体育大会の本県開催が予定されているところでもあり、中長期的な視点に立ち、素質あるジュニア選手の早期発掘と育成、指導体制の確立などにより競技力の一層の向上を図って参ります。

文化芸術の振興

次に、歴史遺産の継承や伝統文化をはじめとした文化芸術の振興について申し上げます。

本県の豊かな自然の恵みの中で、地域の風土に培われて築き上げてきた自然との共生の文化は、「平泉の文化遺産」など、多くの歴史遺産や各地に伝承される伝統芸能、そして文学をはじめとした多様な文化芸術へと受け継がれて参りました。

このような歴史や文化に育まれた精神風土こそ、本県の豊かな地域社会を形成し、多くの偉大な先人を輩出してきた土壌であり、今日の社会の大きな変化の中においても、「岩手の文化」、「岩手の心」として継承し、広く発信していかなければならないものと考えております。

(歴史遺産の継承と伝統文化の振興)

特に、「平泉の文化遺産」の世界遺産への登録は、本県が誇る歴史や文化が世界に認められ、県民の大きな自信と誇りとなるものであることから、その実現に向け全力で取り組んで参ります。

同時に、その価値を国内外に広くアピールするとともに、保存管理に関する意識の醸成を図るため、全国巡回展の開催やガイダンス施設の整備に対する支援などを行って参ります。

このほか、本県の各地に伝わる伝統芸能の発表機会の充実を図るとともに、このような本県の歴史・文化、伝統芸能などを学校教育の中においても更に取り入れ、その理解と継承に努めて参ります。

結びに

本県の教育は、県民総ぐるみでの教育振興運動を展開するなど、地域を担う人間の育成を追及してきた歴史であったと私は認識しております。

そして、多くの先人の熱意とたゆまぬ努力の積み重ねにより、本県の教育の基盤が培われ、地域社会を支え、また、様々な分野で活躍する多くの人材を育んできたところであります。

経済格差の拡大や人間関係の希薄化、家庭・地域の教育力の低下が叫ばれる今こそ、私たちはこのような岩手の教育の原点、使命を再認識すべきであると考えております。

私は、この素晴らしい本県の歴史を引き継ぎ、「いわて型コミュニティ・スクール構想」の推進など、今日の教育を巡る課題に的確かつ柔軟に対応し、岩手の将来を担う人づくりのために全力を尽くして参りたいと考えておりますので、議員の皆様、並びに県民の皆様の御理解と御協力を心からお願い申し上げます。